

----- (はじまり) -----

タケシ「アスカさん、今日から僕、グルメですよ」

アスカ「どうしたのよ。パンフ見ながらニコニコして…。気持ち悪いわよ」

タケシ「相変わらず口が悪いですねえ。まあ、いいですよ。実はね、予約注文してあった炊飯器が届いたんですよ。昨日」

アスカ「前のが壊れたの？でも、いまどきどの炊飯器も似たような性能じゃない？マイコンで完璧に制御されてんだから」

タケシ「そう思いますよね。でも、この炊飯器は違うんですよ。なんたって火力がガスなんです。マイコン制御のガス炊飯器なんです」

アスカ「ガス炊飯器？そんなのうちのおばあちゃんの時代じゃない。何で電気じゃないのよ」

タケシ「だから火力が違うんですよ。それにプラスしてかまどで炊いた職人のプロセスを完全コピーです。うまくないはずがないってわけですよ」

アスカ「ふーん。ちょっとパンフ見せてよ…。あれ？この商品…。やっぱり」

タケシ「な、何ですか。何か問題でも」

アスカ「いや、ちょっとね。ところでこの炊飯器、コードが二本いるじゃない。あ、そっか。ガスのチューブと電源コードだ。面倒な感じね。設置場所も制約受けそう…。業務用途を狙ってるのかしら…」

タケシ「グルメはそんなこと考えないんですよ。うまければ全て忘れましょ。タイマー掛けてきたから、今日からの夕飯が楽しみです」

アスカ「フーン。…実はね、数日前のテレビで、この商品を使って炊いたご飯がうまいかどうかやってたわよ。かまどを使って人手で炊いたご飯と最新鋭のガス炊飯器のご飯のどっちがうまいか、コメ農家31人で判定するって企画で」

タケシ「え！そうなんですか。で、どうでした？最新テクノロジーの勝利でしょ。今頃、アナログチックな手作業のかまどと違って、この炊飯器はコメの分量、水の量、火の炊き加減、全てプログラムされてるんですよ。毎回確実に同じ出来栄えです。負けるわけないでしょ」

アスカ「結果は7対24だったわ。トリプルスコア。圧倒的な差ね」

タケシ「やっぱり。値段が違いますもん。この炊飯器」

アスカ「あ、いや、そうじゃなくて、買ったのはアナログなかまど炊きご飯だったわよ」

タケシ「そ、そんなバカな…。ど、どんな、かまどなんですか、それ」

アスカ「お店に設置してある、かなり大きなかまどだったわね。釜自体も特注らしいけど。それでも勝てるって炊飯器の開発者は自信持ってたんだけどね」

タケシ「うっ。でも、それって誤差ってことはありません？たまたま7対24だったとか…」

アスカ「往生際が悪いわね。もう検定できるでしょ。これくらい」

タケシ「ば、母比率の検定を使うと…えっと、母比率を0.5として、標本数が…、はあ、そんなことはないはずだけどなあ…、ソフトはえっと」

アスカ「もう、じれったいわね。統計量は-3.05329よ。確率にすると偶然に7対24になるのは0.1%程度。11対20くらいだったら偶然の可能性も否定できないのにね」

タケシ「そんなあ、見も蓋もない…」

アスカ「まあ、コメ農家の人もガス炊飯器で炊いたご飯もうまいとは言ってたから、悪い買い物じゃないわよ。あ、それから残念だけど、今日は残業ね。クライアントから突発の仕事が入っちゃったから」

タケシ「ええーっ！泣きっ面に蜂って、このことですよ。もう」

----- (つづく) -----